

# なつかみの郷

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

白地に赤く 日の丸そめて

ああ美しい 日本の旗は

(日本の唱歌より)

第28号

令和3年

12月15日発行

奈加美神社

泉佐野市中庄 834  
電話 462-7080

## 祝 日本遺産追加認定

昨年、泉佐野市が「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」北前船寄港地・船主集落」の広域日本遺産に追加認定されました。

その際、当社が所蔵する奉納弁才船(木製の帆掛け船の模型)も日本遺産の文化財として認定されました。奉納者・奉納年是不詳ですが、実物の十分の一模型で、全長が二メートル四三・三センチ。実船に換算すると全長二四・三メートル、肩幅六メートルの規模になります。

北前船の寄港地は北海道から広島県までの四十八の市町が認定されており、大阪府では大阪市と泉佐野市の二市が認定されています。

泉佐野市は佐野浦の豪商食野家・唐金家が有名ですが、浜続きの湊浦にも廻船業を営む「新屋」(あたらしや)が存在しました。

当社にお参り頂く際は先ず石造の鳥居をくぐりますが、この鳥居は明治十二年新屋(吉水家)により奉納されたものです。そして手水舎で身心を清めますが、この

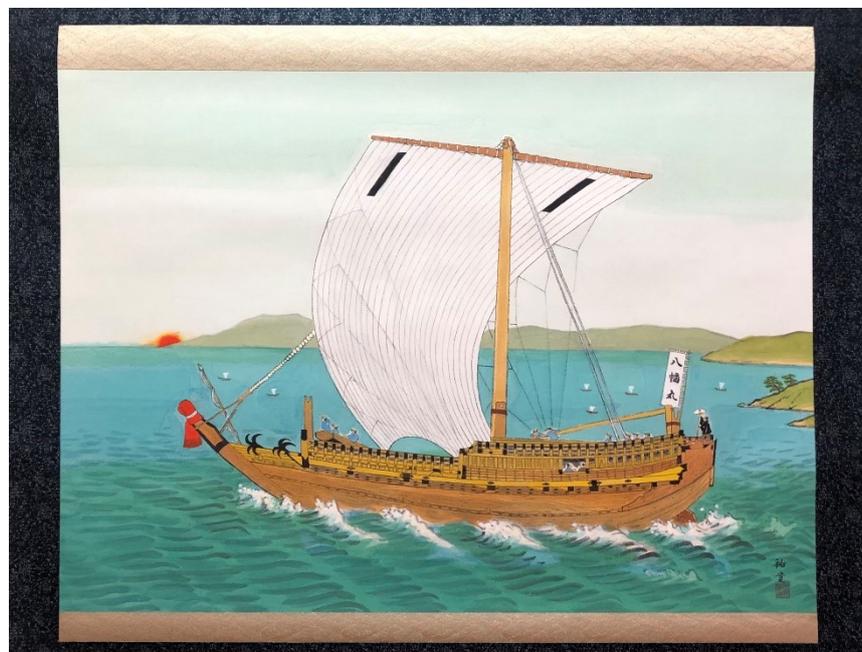
手水鉢も天保十二年に里井忠左衛門と平松九左衛門により奉納されたものです。里井家・平松家ともに湊の庄屋で、里井家が「新屋」の中心的存在であり、平松家も「平九」の屋号で廻船業を営みました。その他にも境内の石燈籠に「湊浦」或いは「浦中」の文字が残り、当時の繁栄ぶりが偲べれます。

湊浦の起源は、慶安・承応(一六四八〜一六五五)の頃、長滝村の川口道庵が当地に移住し、その子川口休和が八反帆船を造ったことに始まったという説がありますが詳らかにされておりません。

元禄九年(一六九六)頃には「湊浦」の名が確立し、その後南は九州平戸、東は江戸、北は越後高田、秋田まで廻船活動を行っており、空船で目的地に向いて米や塩鮪を買い付けたり、地元で買い付けた和泉国米や干鰯を売ったりして、盛んに交易を行った記録が残ります。

当社が所蔵する弁才船は傷んだ部分の修理を行い、欠損している帆も再現して修復頂く予定です。

(弁才船模型の復元絵図 画藤原祐寛)



## 大宮稲荷神社新社殿奉納

昨年十二月に大宮稲荷神社が竣工しました。その際木工事を手掛けて頂きました、紀州宮大工・藤井勝明氏がこの度新たに大型の新社殿をご奉納下さいました。社殿の桁行は約三尺(約九十センチ)で以前の社殿の一・五倍の大きさになり、建築様式は同じ流れ造りで屋根には千鳥破風を頂く大変立派な社殿です。藤井勝明大工には心より厚く御礼申し上げます。

十月三十一日には社務所の建設でお世話になりました今坂工務店のご協力を頂き、クレーンで吊り上げて基壇に設置し、当日夕刻神社総代会参列のもと拝殿内の仮殿より御神体をお遷しする遷座祭を厳粛に斎行いたしました。



大宮稲荷神社の大神様の御神威弥高くお鎮まりになりましたので是非ご参拝下さい。

なお、石玉垣のご奉納も引き続き受付いたしておりますので、ご寄進賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 花社 不二宮 木花咲耶姫命

この度の大宮稲荷神社新社殿奉納に伴い、昨年竣工した旧社殿は本殿西側の藤棚の奥に新たに基壇を設け移設し、静岡県東郡小山町須走に鎮座する東口本宮富士浅間神社の御祭神・木花咲耶姫命(コノハナサクヤヒメノミコト)の御分霊をお迎えしました。

十一月二十六日に浅間神社に参拝、分祀祭に参列させて頂き、御神体を当社まで奉遷し、翌二十七日夕刻、敬神婦人会役員参列のもと鎮座祭を斎行いたしました。新たな神社の社名は「花社・不二宮」(は

なしゃ・ふじのみや)です。

御祭神・木花咲耶姫命は山の神・大山津見神(オオヤマツミノカミ)の御子で、天孫(天照大御神の御孫)邇邇芸命(ニニギノミコト)と結ばれた神さまです。大変美しい神さまで、山の神の性質を受け継ぐ木の花の神で、花の神・美の神、として信仰を集めます。



木花咲耶姫命御神影 画 藤原祐寛

東口本宮富士浅間神社の石橋良弘宮司の前職は大府神社庁です。庁舎は私が兼務させて頂いております大阪府中央区本町鎮座・坐摩神社の境内にございますので旧知の仲です。今回、藤井大工とのご縁、石橋宮司とのご縁が重なり、更に予てから花づくりで神社の振興に取り組み思いが重なり「花社・不二宮」の建立の運びとなり、感慨深く喜びもひとしおです。

東口本宮富士浅間神社へは今回初めて参拝させて頂きましたが、拝殿後方に富

土山を望み、境内には富士山からの豊かな水が流れ、参道には杉木立が生い茂り、大変立派な神社で感銘を受けました。素晴らしい神社ですので、機会がございましたら是非ご参拝下さい。



正面鳥居・参道には杉木立が並ぶ



神社付近から望む富士山



楼門

## 御朱印参りと花手水

近年氏子地域以外からのご参拝が増加

傾向にあります。当社では神社の日常や神事の際、その記録を兼ねてインスタグラムやフェイスブック等、SNSで情報発信をしております。

おついたち参りにお分かちするポン菓子のお食事)、そして大宮稲荷神社の勾玉の水盤にビー玉と季節の花で装飾した花手水、各種行事のお知らせ等内容は様々ですが、定期的に投稿しております。その情報がメディアにも取り上げられ、水茄子の土鈴「成就なす」が全国誌に掲載されたこともありました。



南海電鉄難波駅・北口改札横に設置された特大ポスター



大宮稲荷神社・花手水 (月始めのみ)

お見掛けになった方もおられると思いますが、最近では南海電鉄の「南海ロマン」シリーズ「秋」に掲載されました。難波駅北口改札には縦三メートル横六メートルの特大大ポスターが設置され、駅構内や電車内にもポスターが掲げられ、そのポスターを見て頂き多くの方々がお参り下さいました。その方々は決まって御朱印帳を片手にお参り頂きます。御朱印ブームもすっかり定着したように感じます。



十月からは通常の御朱印に加え、御朱印帳に貼ることのできる、和紙の裏面



十月からは通常の御朱印に加え、御朱印帳に貼ることのできる、和紙の裏面

に糊が施された書置きの御朱印を作成しました。まもなくお正月ですが、宜しければ初詣の際にお受け下さい。

## 神道家のご葬儀〜慰霊祭



古来より日本は神の国です。大自然の神々を崇め敬い、祖先を尊ぶ国風です。大陸から仏教が伝来し、土着の神道と習合し、仏教の教えが広まりました。

江戸時代に入ってからには寺請制度が定まり、葬儀はお寺に委ねられました。江戸時代の後期から明治時代に掛けて徐々に神道式の葬儀も復活し、今では神道家の場合は神道式のご葬儀（神葬祭）を行います。

当社では神道式のご葬儀も承っております。ご葬儀は葬儀社のセレモニーホールで行うことがほとんどですが、仏式の

四十九日に当たる五十日祭を始め百日祭一年祭、二年祭、三年祭等、故人の御霊をお慰めする慰霊祭（年祭）は社務所の和室を齋場としてご利用頂けるように整えております。神葬祭を始め年祭等につきましてもお気軽にご相談下さい。

## 安産戌の日まいり

当社の主祭神は応神天皇（八幡さま）、そして配祭神には母君の神功皇后がお祀りされております。古事記によると約一八〇〇年前、神功皇后は朝鮮半島に出征した際、お腹に応神天皇を身ごもっており、その時に石を帯の中に巻き付け、帰還後に無事お産みになったことが記されています。このことから神功皇后は安産の神として崇められ、岩田帯の起源にもなったと言われています。安産祈願は一般的に妊娠五ヶ月の戌の日にお祓いを受け、岩田帯を着帯します。戌の日にお参りするのは犬が多産であり、安産であることに因みます。

目出度く子宝に恵まれた際には、戌の日の安産祈願にお参り下さい。安産御守、岩田帯と共に、普段でも簡易にお使い頂ける腹巻型の腹帯もお授けしております。

令和4年 安産戌の日表

1月	9日(日) 21日(金)
2月	2日(水) 14日(月) 26日(土)
3月	10日(木) 22日(火)
4月	3日(日) 15日(金) 27日(水)
5月	9日(月) 21日(土)
6月	2日(木) 14日(火) 26日(日)
7月	8日(金) 20日(水)
8月	1日(月) 13日(土) 25日(木)
9月	6日(火) 18日(日) 30日(金)
10月	12日(水) 24日(月)
11月	5日(土) 17日(木) 29日(火)
12月	11日(日) 23日(金)



### ご祈祷のご案内

お宮参り・安産祈願・七五三厄除け・車のお祓い・地鎮祭住宅入居のお祓い、各種お祓い神道家葬祭・霊祭、神棚の相談等も受付致しておりますお電話にてお問合わせ下さい

公式ホームページ開設  
<http://www.nakami.org>

インスタグラム・フェイブック公式ページにフォローを宜しくお願ひします

